

厚真町こども園つみき
園だより

2月号
令和7年1月31日
園長 井鳥 佳織



《保育理念》

「生きていく力を育む」

《保育目標》

- ・ 僕らの暮らし 「その人らしさ」「食」「自然との関り」を大切にします。
- ・ 僕らの思い 「おもいやり」「楽しい」を大切にします。
- ・ 僕らの挑戦 「一人ひとりのやりたい、やってみてほしい」「試行錯誤」を大切にします。

ホール環境について考えました

こども園つみきは、環境をととても大切にしています。環境は、園庭、室内（ロフト、パーテーションや植物などの配置、掲示等々）の空間的・物的な環境と保育者や友だちなどの人的環境があります。この物的環境と人的環境がより良い関係性を築くことで、相乗効果が生まれ『質の高い保育』というパズルのピースの1つとなるのだらうと思います。

そのより良い関係性を築くのは、人的環境である私たち保育者であり、今もこれからも『保育者の質』を高めていくことは不可欠だと思っております。

『保育・保育者の質』を高めるための取り組みの1つとして、保育環境研究家である木村歩美さん（以下木村さん）に定期的な環境観察や研修をしていただいています。12月の木村さん保育観察日、ホール遊びの様子をみて、問題提起をしていただきました。その問題提起をきっかけに『小さい子たちはどんな動きをしたいのか、どのような環境があればそれが叶うのか』『大きい子たちは、どうしてロフトの3階に魅力を感じなくなったのか』をテーマに保育者の皆さんに話し合ってもらいました。話し合った内容を木村さん参加型の研修の中でさらにブラッシュアップし、今回（1月24日）のロフト改修のワークショップに至りました。

ロフト改修後のホールのテーマは、

***小さい子は、もう少し身体や能力をつかって過ごせるように。**

***大きい子は、おとなとロフト3階で遊び込める空間に。**

***0～5歳児と一緒に過ごす中で、安心安全に遊びを楽しみ、そして、自ら育つ力・危険察知能力の育ちの芽を摘まない環境**

***大きい子と小さい子と一緒に過ごす、関わる。**

***小さい子は、大きい子の姿や遊びを見る、関わる。**

***大きい子は、小さい子はどのような存在なのか関わることで知る。**

関わり、言葉を交わし、体験することからしか学べないことがたくさんあります。

子どもにとって何が必要か、私たち保育者は何ができるのか考え、環境を整えることが『保育者の質』を高める大切なプロセスの1つだと考えております。

ロフト改修したからOK終了♪ではありません。子どもたちの遊ぶ姿を観察しながら、より良い環境となるように手を加えていく、大人の試行錯誤は永遠に続きます！

子どもとおとな
木材を前に何を話しているのか、考えているのか・・・。



杉本さん、両角さん、
ワーク参加ありがとうございました。ナイス！インパクトさばきでした！

坂道の上周囲に植物を
這わせたのは、垂直落下を防ぐためです。
「登りたい」と思わないようにするため。



ロフトの右横には、**おとな**の出入り口を新たに
つけました。おとなの誰もが
登れ、子どもと遊び込める
素敵な扉。



ポリカーボネートを貼ったのは、小さい子が木の隙間から腕を出している時に、不意の衝突による骨折を防ぐため。



【番外編】おとなも楽しい
先日、澤井さんがフードコートの呼び出しベルを作ってくれました☆お子さんのほし組でのAEON遊びが、お家でも続いている様子を見て、「呼び出しベルを作ってみよう」とお母さんも作ってみたいそうです。早速呼び出しベル3・4号を子どもたちは作っていましたよ☆素敵ですね！

2月の予定

- 3日(月) 豆まき会・安全点検日
- 4日(火) プラネタリウム鑑賞(ほし・そら・にじ組)
- 17日(月) 厚真中央小学校交流(きりん組)
- 18日(火) ワクワクキャラバン
保護者会総会・全体懇談会
- 27日(木) 避難訓練(火災)
にじ組給食センター見学